

(様式1)

大 学 名	早稲田大学	学 問 分 野	人文科学
専 攻 等 名	文学研究科・芸術学(美術史)専攻、史学(東洋史)専攻、中国文学専攻、史学(考古学)専攻、史学(日本史)専攻、日本語・日本文化専攻		
拠点のプログラム名称	アジア地域文化エンハンシング研究センター		
拠点リーダー氏名	大橋 一章	所属部局・職	文学研究科・芸術学(美術史)専攻・教授
プログラムの概要	アジアの地域文化を見直し、それに新たな価値を付与して、21世紀の新しいアジア文化研究の世界的拠点を創ると共に、プロジェクト研究所を活用して若い研究者を指導し、課程博士を授与する。		
拠点形成の目的・必要性	我々の日常世界を取り囲む地域文化は、文化のグローバル化の過程で急速に失われつつある。このような文化の画一化と地域文化の喪失の関係は、東アジアではかつて中国文明の負の遺産として体験されたものである。そのため本研究では、まず四川を地域モデルとして中国文明と巴蜀文化の歴史的関係を検証し、それを手がかりとして四川の地域文化を諸方面から考察し、さらに他の地域文化とも比較検討する。これによって、現代アジアの地域文化が遭遇している世界史的な位置づけを明示する。“エンハンシング”とは、文化遺産などの“価値を高める”意味の“Enhance”を借用したものである。本センターでは、地域文化に新たな価値を発見し、また価値を創造して、新たなアジア文化研究の可能性と方向性を世界に提示する。		
研究拠点形成実施計画	東洋史専攻は成都平原に形成された巴蜀文化の形成過程と民族との関係、及び秦漢帝国成立以後の巴蜀文化の変容過程を検討する。美術史専攻は仏教東伝の新たなルートとして西南ルート・青海ルートに注目して、四川に入ってきた仏教美術が独自の地域様式を形成する過程を検証する。中国文学専攻は正式な書籍には含まれない巷間の印刷資料によって、庶民文化の生成・流布・変遷・交流の諸相を検証する。この三専攻の研究を中心として地域文化の四川モデルを構築し、それを西北の乾燥地帯(オアシス文化)、北方の草原地帯(遊牧文化)、北東の森林地帯(狩猟文化)、東南の亜熱帯(稲作文化)と比較検討する。海外の研究機関との共同研究の方法はユネスコ・カルチャル・チェアー・プログラムを参考にし、獲得された資料はデジタル化し、それを現地の共同研究機関と共有して研究する。		
教育実施計画	本研究は大学院六専攻による共同研究であるが、実質的にはプロジェクト研究所を単位に実施される。プロジェクト研究所は学内の専任教員を中心に組織されているが、学外・海外の研究者も客員教員もしくは客員研究員として採用している。そこで本センターでは新たに大学院博士後期課程の院生を文学研究科の助手として採用し、あるいはプロジェクト研究所の客員研究員として採用し、またPD研究者も同じく客員研究員として採用する。そしてこれらの者に対して、5年以内に課程博士論文を完成するための高度な研究指導を実施する。その研究指導は大学院の直接の指導教員のみならず、学内の研究員、学外・海外の客員教員と共同で遂行される。また以上のプロジェクト研究所を基盤とする研究活動と課程博士論文の指導は、学外・海外の院生やPD研究者に対しても門戸を開く。		

草原地帯と
遊牧文化

乾燥地帯と
オアシス文化

森林地帯と
狩猟文化

西北

北方

北東

地域文化の
四川モデル

亜熱帯と
稲作文化

東南

地域文化の固有性・共通性
中国文明との関係の検証